

● 内政

1 **保健相、コレラの流行を受け対策を発表**

マセボ保健大臣は、ザンビア国内、特にルサカでコレラの感染が拡大していることを受け、臨時のコレラ対策センターをサッカースタジアムに開設することを発表した。同時に、ルサカ市内、特に未計画居住地（コンパウンド）の衛生状況が劣悪であることに触れ、コンパウンドに居住する市民に対し、地方への帰還を考慮するよう促した。（1月4日付 News Diggers）

2 **コレラ流行地域における集会を制限する政令を承認**

マセボ保健大臣は、コレラ流行地域において、家族以外の5人を超える集会を制限する2024年政令文書第5号に内閣が署名し、承認したと発表した。具体的な地区名などは発表されていないものの、特に流行が深刻な地域についてはバーなどの閉鎖命令も同時に発表された。（1月15日付 News Diggers）

3 **国際NGO、コレラ支援対策物資の適切な管理を求める**

国際NGOであるトランスペアレンシー・ザンビアは、保健省に対し、コレラ対策のために各国・国連機関などから寄贈された寄付金や物資の管理について、最高水準のコンプライアンス対応を求めた。COVID-19流行時に寄付された資金について、会計検査院の報告書によって不正が発覚したことを受けたものであり、当地では保健省は常々汚職の温床という評価となっている。（1月16日付 News Diggers）

4 **水資源開発・衛生相、ザンビアの水道普及率などを発表**

ムポシャ水資源開発・衛生大臣は、ザンビアで衛生施設を備えた水道設備は全体の54%である

ことを発表した。他方、都市部の住民がリスクの高い浅井戸から生活用水を使用していることについて、水道料の支払いを避けるためとの認識を示しつつ、コレラ流行の感染防止のために浅井戸の埋め立てや市街の衛生向上策をとることについて国民の理解を求めた。（1月16日付 News Diggers）

5 **大統領、政府高官に対して成果を挙げるように訓示**

ヒチレマ大統領は、各省事務次官・高官を集めた会合の中で、各省高官に対して明確な成果を挙げるよう訓示した。政権発足から2年6ヶ月が経過する中で、改革は進行しているもののスピードが早いとは言えず、政府高官に対しては無意味な国外出張をせずに国民の為になる行動を取るよう促した。（1月19日付 News Diggers）

6 **大統領、銃規制の見直しを指示**

ヒチレマ大統領は、1月中旬に大臣経験者が自宅で銃殺された事件を受け、内務・国内治安大臣及び警視總監に対し、銃規制の見直しを指示した。銃を巡る犯罪が増加する中で規制強化がどのように進展するのが注目される。（1月22日付 News Diggers）

● 外交・対外関係

1 **大統領、フェリックス・チセケディ・コンゴ民主共和国大統領の再選を祝福**

ヒチレマ大統領は、コンゴ民主共和国で12月に実施された大統領選挙の結果、再選が決定したチセケディ大統領の再選を祝福した。同時に、コンゴ民主共和国での選挙が平和的かつ平穩に実施されたことは、コンゴ民主共和国の人々の民主的プロセスに対する回復力とコミットメントを称賛し、二国間関係の更なる発展に期待を述べた。ヒチレマ大統領は20日に実施したチセケディ大統

領の就任式にも出席した。(1月12日付 New Diggers、1月22日付 Daily Mail)

2 スウェーデン大使、ザンビアでの汚職の蔓延に懸念

駐ザンビア・スウェーデン大使は、ザンビアでの汚職の蔓延が原因で企業が同国企業がザンビアへの投資を避け、他国への投資へシフトする現状であると述べた。他方で、現政権の汚職との闘いについては好意的に評しつつも、罰則の強化などを通じて汚職との闘いの更なる深化を求めた。(1月15日付 News Diggers)

3 ザンビア政府、スウェーデン大使の発言に反発

項2で触れた駐ザンビア・スウェーデン大使の発言に対し、ザンビア政府は反論を行った。現政府は汚職との闘いに法制度を以て前向きに取り組んでおり、確固たる証拠を示さずにアフリカを腐敗・紛争に塗れた大陸とレッテル貼りするべきではないと述べた。(1月16日付 News Diggers)

4 国際NGO、政府のスウェーデン大使への反応に対して懸念を表明

項3で触れた駐ザンビア・スウェーデン大使への政府反応について、国際NGOであるトランスペアレンシー・ザンビアは、現政権から即時に項3のような反応が出たことに対し、懸念を表した。ルング政権時代にもまさに同じような反応があったとし、現政権に対してステークホルダーの懸念に注意を払うとともに、慎重に対応すべきと評した。(1月19日付 News Diggers)

5 外相代行、EU代表部と政策対話を実施

1月23日、ハインベ外務・国際協力大臣代行は、在ザンビアEU代表部とザンビア＝EU政策対話を実施した。対談の中では、ハインベ大臣よりEUの継続的な各分野への支援に感謝を述べると

ともに、ザンビアにおける民主主義の土壌の成長について触れた。その後債務再編のプロセス及び再生可能エネルギー分野でのEUの支援が要請された。在ザンビアEU大使は、民主主義と統治改革、経済・金融、人権、ジェンダーについて重要視していると述べ、今後も継続して活発な議論ができることを期待すると述べた。(1月24日付 News Diggers)

6 大統領、ボツワナを訪問

ヒチレマ大統領は1月24日から25日にかけて、マシシ大統領の招きによりボツワナを訪問し、同大統領と会談した。会談では輸送、鉱業、貿易・投資、農業・畜産などを通じた二国間関係の強化について触れられた。また、両大統領は両国の国境であるカズングラ橋を訪問し、ワンストップボーダーサービスを見学するとともに、出入国管理技術協力に関する覚書への調印に立ち会った。(1月26日付 News Diggers)

7 大統領、外交団に対し2024年施政方針を説明

ヒチレマ大統領は1月26日に、外交使節団に対して新年挨拶として2024年の施政方針を説明した。債務再編に向けた調整への協力依頼、コレラ対策としてのコンパウンド整備について触れた後、外交方針として既存方針を維持しつつ、民主主義のさらなる強化を図るとともに、近隣各国で本年実施される各選挙の平和裏な実施に向けて、各国への支援が呼びかけられた。(1月27日付 News Diggers)

8 内務・国内治安相、イタリア＝アフリカサミットへ参加

ムウィンブ内務・国内治安大臣は、ヒチレマ大統領の代理としてイタリア＝アフリカサミットへ参加した。ムウィンブ大臣は、不法移民に対処するためには、包括的で持続可能な経済が必要であ

り、より大きなグローバルな文脈の中で、平和で文化的なアフリカが必要であると述べた。同時に、ザンビアは豊富な鉱物資源と肥沃な土地を持ち、ザンビアへの鉱業、農業、製造業、インフラ、再生可能エネルギー分野への投資を通じて、不法移民を緩和する機会を創出できると述べるとともに、アフリカにおける不法移民問題の根源である地域紛争の解決に向けて、協力パートナーからの支援強化を呼びかけた。

(了)